5.7　生物・生態系

5.7.1　工事の施行中

(1) 調査事項

調査事項は、表 5.7-1 に示すとおりである。

表 5.7-1　調査事項（工事の施行中）

区分	調査事項
予測した事項	○生物 ・陸上動物相の変化の内容及びその程度 ・生息（育）環境の変化の内容及びその程度 ○生態系 ・陸域生態系の変化の内容及びその程度
予測条件の状況	・建設作業騒音の状況
環境保全対策の実施状況	・「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」に規定されている建設機械は、低騒音型を使用する。 ・建設機械については、集中稼働しないよう工事内容の平準化及び機械の効率的な稼働に努め、アイドリングストップや不要な空ぶかしの防止を徹底する。 ・建設機械は点検、整備を徹底し、性能の維持に努める。

(2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

(3) 調査手法

調査手法は、表 5.7-2 に示すとおりである。

表 5.7-2　調査手法（工事の施行中）

<table>
<tr><td colspan="2">調査事項</td><td>陸上動物相の変化の内容及びその程度</td><td>生息（育）環境の変化の内容及びその程度</td><td>陸域生態系の変化の内容及びその程度</td></tr>
<tr><td colspan="2">調査時点</td><td colspan="3">工事の施行中の時点とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">調査期間</td><td>予測した事項</td><td colspan="3">建設作業が最盛期となる時期（工事経過月数 31 ヶ月目）を含む１年間とし、以下の時期とする。
○陸上動物の状況
哺乳類：４季（春季、夏季、秋季、冬季）
鳥類：４季（春季、初夏季、秋季、冬季）
爬虫類及び両生類：３季（春季、夏季、秋季）
昆虫類：４季（春季、初夏季、夏季、秋季）
○生息（育）環境
１季（秋季）
○陸域生態系の状況
「陸上動物の状況」と同一期間とする。</td></tr>
<tr><td>予測条件の状況</td><td colspan="3">「予測した事項」と同一期間とする。</td></tr>
<tr><td>環境保全対策の実施状況</td><td colspan="3">工事の施行中の随時とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">調査地点</td><td>予測した事項</td><td colspan="3">計画地及びその周辺（計画地敷地境界から 200m 程度の範囲）とする。（図 5.7-1～図 5.7-4 参照）</td></tr>
<tr><td>予測条件の状況</td><td colspan="3">計画地内とする。</td></tr>
<tr><td>環境保全対策の実施状況</td><td colspan="3">計画地及びその周辺とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">調査手法</td><td>予測した事項</td><td colspan="3">○陸上動物の状況
哺乳類
フィールドサイン法（４季）、トラップ法（２季）、無人撮影法（２季）、夜間調査（主にバットディテクターによる調査）（１季）とする。
鳥類
ラインセンサス法、定点観察、任意観察とする。
爬虫類及び両生類
任意観察とする。
昆虫類
任意採集、ライト・ベイトトラップ法とする。
○生息（育）環境
植物社会学的調査法とする。
○陸域生態系の状況
生物の調査方法に準ずる。</td></tr>
<tr><td>予測条件の状況</td><td colspan="3">関係資料の整理による。</td></tr>
<tr><td>環境保全対策の実施状況</td><td colspan="3">現地調査（写真撮影）及び関係資料の整理による。</td></tr>
</table>

凡例

- ：計画地
- ：市界
- ：調査範囲
- ：玉川上水緑道・野火止用水緑道
  隣接樹林地

N

1:5,000

0 50 100 200m

図 5.7-1

生物・生態系調査範囲

凡例

- ：計画地
- ：市界
- ：調査範囲
- ：トラップ設置範囲（T1～T3）
- ：無人撮影カメラ設置地点（T1～T3）
- ：玉川上水緑道・野火止用水緑道 隣接樹林地

T1：落葉広葉樹林、植栽低木、林床植生貧弱
T2：落葉広葉樹林、踏圧顕著、林床植生貧弱
T3：落葉広葉樹林、散策路あり、林床植生成立

N

1:5,000

0 50 100 200m

図 5.7-2
哺乳類調査の範囲・地点

凡例

- ：計画地
- ：市界
- ：調査範囲
- ：ラインセンサスルート(L1, L2)
- ：定点観察地点(P1)
- ：玉川上水緑道・野火止用水緑道 隣接樹林地

L1：落葉広葉樹林、散策路あり
L2：落葉広葉樹林、踏圧顕著、林床植生貧弱
P1：耕作地、緑の多い住宅地

N

1:5,000

0 50 100 200m

図 5.7-3
鳥類調査の範囲・地点

凡例

- ：計画地
- ：市界
- ：調査範囲
- ：ベイトトラップ設置範囲（T1～T3）
- ：ライトトラップ設置地点（T1～T3）
- ：玉川上水緑道・野火止用水緑道 隣接樹林地

T1：落葉広葉樹林、植栽低木、林床植生貧弱
T2：落葉広葉樹林、踏圧顕著、林床植生貧弱
T3：落葉広葉樹林、散策路あり、林床植生成立

N

1:5,000

0 50 100 200m

図 5.7-4
昆虫類調査の範囲・地点

5.7.2　工事の完了後

(1) 調査事項

調査事項は、表 5.7-3 に示すとおりである。

表 5.7-3　調査事項（工事の完了後）

区分	調査事項
予測した事項	○生物 ・陸上動物相の変化の内容及びその程度 ・生息（育）環境の変化の内容及びその程度 ○生態系 ・陸域生態系の変化の内容及びその程度
予測条件の状況	・施設の稼働騒音の状況 ・緑化の状況
環境保全対策の実施状況	・設備機器は原則として建屋内に設置する。また、必要に応じて周囲の壁に吸音材を取り付ける等の対策を行う。 ・設備機器の使用にあたっては、点検・補修等の維持管理を適切に行う。

(2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

(3) 調査手法

調査手法は、表 5.7-4 に示すとおりである。

表 5.7-4　調査手法（工事の完了後）

<table>
<tr><td colspan="2">調査事項</td><td>陸上動物相の変化の内容及びその程度</td><td>生息（育）環境の変化の内容及びその程度</td><td>陸域生態系の変化の内容及びその程度</td></tr>
<tr><td colspan="2">調査時点</td><td colspan="3">施設の稼働が定常の状態に達した時点とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">調査期間</td><td>予測した事項</td><td colspan="3">１年間とし、以下の時季とする。
○陸上動物の状況
哺乳類：４季（春季、夏季、秋季、冬季）
鳥類：４季（春季、初夏季、秋季、冬季）
爬虫類及び両生類：３季（春季、夏季、秋季）
昆虫類：４季（春季、初夏季、夏季、秋季）
○生息（育）環境
１季（秋季）
○陸域生態系の状況
「陸上動物の状況」と同一期間とする。

なお、生息（育）環境の調査については、陸上動物の状況と同時期に加えて、計画地内の植生が整った時期においても調査する。</td></tr>
<tr><td>予測条件の状況</td><td colspan="3">「予測した事項」と同一期間とする。</td></tr>
<tr><td>環境保全対策の実施状況</td><td colspan="3">施設の稼働が通常の状態に達した時点の随時とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">調査地点</td><td>予測した事項</td><td colspan="3">計画地及びその周辺（計画地敷地境界から 200m 程度の範囲）とする。（図 5.7-1～図 5.7-4 参照）</td></tr>
<tr><td>予測条件の状況</td><td colspan="3">計画地内とする。</td></tr>
<tr><td>環境保全対策の実施状況</td><td colspan="3">計画地及びその周辺とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">調査手法</td><td>予測した事項</td><td colspan="3">○陸上動物の状況
哺乳類
フィールドサイン法（４季）、トラップ法（２季）、無人撮影法（２季）、夜間調査（主にバットディテクターによる調査）（１季）とする。
鳥類
ラインセンサス法、定点観察、任意観察とする。
爬虫類及び両生類
任意観察とする。
昆虫類
任意採集、ライト・ベイトトラップ法とする。
○生息（育）環境
植物社会学的調査法とする。
○陸域生態系の状況
生物の調査方法に準ずる。</td></tr>
<tr><td>予測条件の状況</td><td colspan="3">関係資料の整理による。</td></tr>
<tr><td>環境保全対策の実施状況</td><td colspan="3">現地調査（写真撮影）及び関係資料の整理による。</td></tr>
</table>